

## 授業改善書

科目名	西洋史学入門
担当者	伊藤 栄晃

### 授業の概要

古代ギリシアのヘロドトスから始まり、現在世界の歴史研究をリードしているエマヌエル・トッドに至る西洋の歴史叙述と歴史研究の歴史的展開を、「過去を調査し、知り、物語るとはどのような行為か」という方法的問いかけを中軸として、講義する。歴史哲学的考察こそ西洋の史学諸潮流の一貫した課題であり、それこそが他の文化の歴史叙述には見られないユニークな特徴なので、それをしっかりと理解してもらうことを何よりも重視している。ただし歴史の初学者には、純粋に歴史哲学的考察だけでは、議論についてくるのが難しい局面があることも考えられるので、時代背景の特徴や現代社会を考えるヒントなどを適宜織り込みながら説明を行っている。

### 授業の問題点

黒板の板書のスピードならびにその量が多いこと。そのため受講者の中にはノート取りで手いっぱいになり、肝心の口頭での説明や問題提起まで消化できないケースがままあること。

### 授業改善の課題・方策

上記の諸問題は年来のものであり、昨年度より板書の量を削減し授業時間の終了間際には質問の時間を確保したり、毎時間参照文献を示して自学自習を促したり、伝えなければならない事項の一部をレポート課題として課すなどの対応を試みている。引き続きこれらの改善策をより強化し追及してゆく。加えて読書体験のあまり豊かとはいえない受講生も少なからずみられるので、板書も文章ではなく、可能な限りフローチャートに落とし込んで、とりあえず受講者全員に一時的理解が確保できるようにしたい。もちろんそれは、文章のみが伝達できる微妙なニュアンスやさまざまな含意を犠牲にすることゆえ、それらを包み込むより高次の理解の確保という新たな課題を惹起する。それへの対応は今後真剣に考えてゆかなければならない。

### その他

西洋史学入門は、全学共通科目ゆえ、受講者には様々な学力と関心の方向を有する者が含まれるため、魅力ある・満足してもらえる授業を構築することは、正直なところ容易とは言えない。今のところ自分の経験だけを頼りに試行錯誤を繰り返しながら改善を図っているが、決して十分とは言えない。他の同様の授業の担当者の経験などに学ぶ機会があれば、工夫の幅を広げることができるかも知れない。